

古い友からの贈り物 その1

～Tシャツと成瀬あかり～

子どもの権利擁護委員 関谷 道夫



大学の同期から、恒例の「**Southern Beach Chigasaki**」のTシャツが届きました。今年は、ダークグレイのシックなデザイン！いつになく着る回数も多くなりそうです。この友は、実は少し年上で、他大学の工学部を退学し、心理学科に入学してきたユニークな経歴。学内は騒然としていましたが、一山超えた年長の雰囲気漂わせていました。



Tシャツのロゴの下には『**Don't stop having fun**』の小さな文字。「楽しむのをやめないで」「遊び心を忘れないでね」「人生を楽しむ姿勢を続けて…」という意味合いでしょうか？ 茅ヶ崎で、今でも小さな塾を続けていますが、底を流れる人生哲学が滲み出ています。そう言えば、英語が堪能で、C・G・ユングの日本語訳を手伝う人でした。私に対する隠された警鐘メッセージが含まれているのかもしれません。（笑い）

もう一つ、成瀬あかりシリーズの最終作『**成瀬は都を駆け抜ける**』が入っていました。よく売れているようで、帯がホログラム仕様になっています。（『**成瀬は天下を取りに行く**』『**成瀬は信じた道をいく**』は、横浜西口五番街で懇談した時に有隣堂で、「**YURINDO**」のカバーが懐かしいでしょう」と笑って、すでにプレゼントされています。）

成瀬あかりにこだわる理由の一つは、「**うちの塾にも成瀬と呼ばれる女生徒がいる**」ということでした。茅ヶ崎の小さな塾の「成瀬」と聞くと、何が成瀬なのだろう？ どこが似ているのだろう？ と興味が湧いてきます。魅力のある生徒なのだろうと思いますが、このことに関しては、これからのコラムで触れます。

宮島未奈による「**成瀬あかり**」シリーズは、破天荒で魅力的な主人公・成瀬あかりの

人生を描いた三部作です。舞台となる滋賀県大津市を背景に、中学生時代から大学進学後までの成長が描かれています。大津市のローカルな風景が散りばめられて、濃厚な趣が出ています。

軽いタッチで読みやすく、最後には暖かい気持ちになります。中高校生には読んでほしいと思っています。『成瀬は天下を取りに行く』は2024年本屋大賞を受賞し、文庫版にもなっています。

「**島崎、わたしはこの夏を西武に捧げようと思う**」と、幼馴染の島崎みゆきに宣言した中学二年の成瀬あかりは、閉店を間近に控える西武百貨店に毎日通って、ローカル番組の中継に映ると言い出し、**西武ライオンズのユニフォームを着て通い続けました**。象徴的なシーンです。M-1 グランプリに挑戦したり、人間の髪の毛の伸びる速さを検証するという独自の「実験」のため、突然自分の頭を坊主頭にして、高校の入学式に登校します。一方で、膳所高校から京都大学理学部に進学する堅実さも持ち合わせています。他人の目を気にせず全力でやりたいことに挑戦しますが、次第に、周りの人を惹きつけ、共感を生んでいきます。

大きなドラマや劇的な変化が起きるわけではありませんが、破天荒でユニークな我が道を突き進む姿は、斉一性や同調性が求められる子どもの世界で、心地よい爽快感を抱くことができます。「**自分なりの人生でいいのだ**」「**やりたいことをやろう**」という気分になるでしょう。

(次回は、「成瀬あかりからのメッセージ」です。)